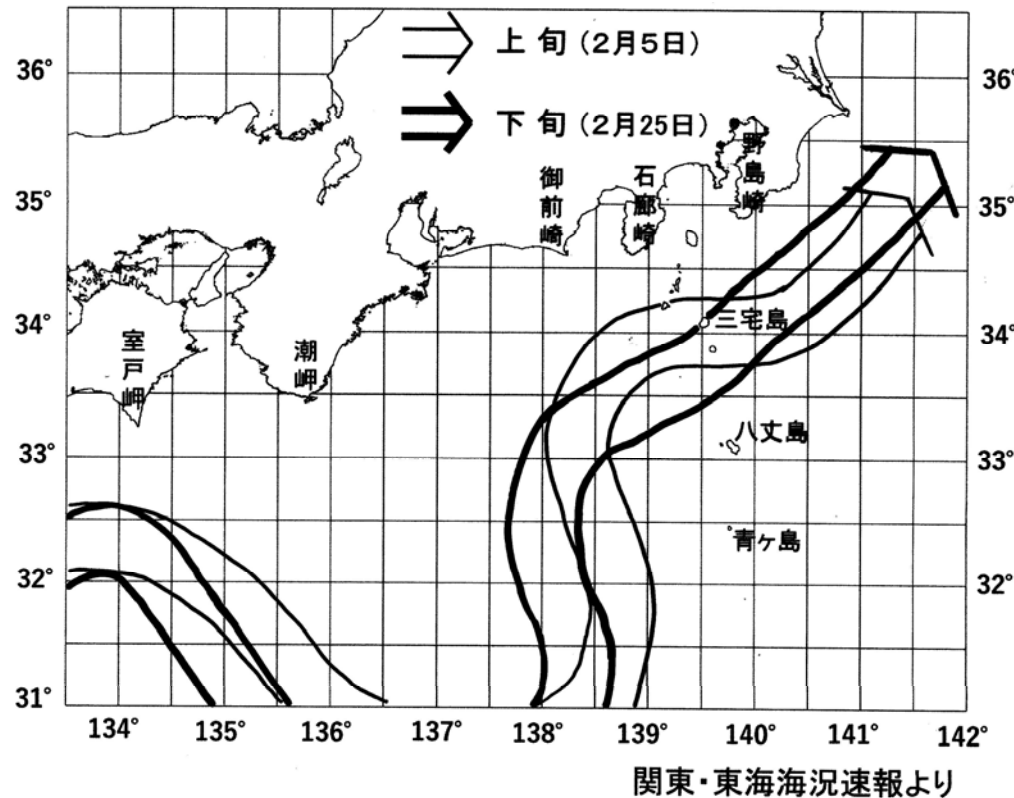


漁海況月報

令和2年2月1日

No.2 ~2月29日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



2月定地水温の旬平均値() (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	15.8	16.3	15.2	16.4	16.8	15.0
	1.8	1.9	1.4	2.0	2.7	1.4
中旬	15.5	15.9	15.3	16.3	15.6	15.7
	1.6	1.8	1.6	2.1	1.6	2.3
下旬	15.4	15.7	14.7	15.5	15.3	14.9
	1.7	1.7	1.0	1.1	1.6	1.5
月	15.6	16.0	15.1	16.1	15.9	15.3
	1.7	1.8	1.4	1.8	2.0	1.8

*地頭方の水温観測は終了しました。

[黒潮流路]

2月を通じてA型で、上旬は潮岬沖31°Nから南東に進み、30.5°N、137°E付近まで南下した後、138-139°Eの間をS字状に北上し、三宅島付近から北東に流去した。中旬は潮岬沖31°N付近から南東に進み、30.5°N、137°E付近まで南下した後、137-139°Eの間をS字状に北上し、三宅島付近から北東に流去した。下旬は潮岬沖30.5°N付近から東に進み、137°E付近から北東に向きを変え、138°E付近を北上した後、三宅島付近を通って北東に流去した。

上旬～中旬には、御前崎沖の黒潮屈曲部から遠州灘～熊野灘に向けて、内側反流が形成された。また、三宅島西の黒潮東流部から大島西水道に向けて、断続的に暖水波及がみられた。

[県下沿岸域]

上旬は、下田、焼津「やや高め」、伊東、稲取、雲見「高め」、沼津「かなり高め」であった。中旬は、伊東、稲取、下田、雲見、沼津、焼津とも「高め」であった。下旬は、下田、雲見「やや高め」、伊東、稲取、沼津、焼津「高め」であった。

[竿釣カツオ]

2月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年同月の水揚げ量は86トン)。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚げ量(県内主要5港)

期間	水揚げ量(ト)	水揚げ隻数	平均水揚げ/隻(ト)	平均単価(円/kg)
R2年2月上旬	0	0	-	-
中旬	0	0	-	-
下旬	0	0	-	-
R2年2月計	0	0	-	-
H31年2月計	86	5	17.3	207
H30年2月計	59	4	14.7	279

[定置網]

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚げ量は460.8トンで前年の同漁場の水揚げ量(115.1トン)の4.0倍であった。また、1か統あたりの水揚げ量は、65.8トンで前年(16.4トン)の4.0倍、平年(29.7トン)の2.2倍であった。水揚げ量の多い漁場は、川奈漁場(236.3トン、マイワシ、さば類、スルメイカ)次いで北川漁場(125.0トン、マイワシ、さば類、オアカムロ)であった。

多獲された魚種の水揚げ量は次頁(表)の通りで、マイワシは374.7トンで、前年比6.4倍、平年比18.2倍と2月の水揚げ量としては昭和57年以降最も多かった。魚体は中羽主体に大羽も水揚げされた。さば類は31.2トンで前年比1.9倍、平年比1.3倍であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは10.3トン、前年比1.5倍、平年比2.7倍、ゴマサバは20.9トン、前年比2.2倍、平年比94%であっ

た。オアカム口は9.2トンで、前年比2299.8倍、平年比121.7倍と2月の水揚量としては昭和57年以降最も多かった。魚体は25～30cm主体であった。スルメイカは7.5トンで、前年比1.7倍、平年比30%であった。カタクチイワシは5.0トンで、前年比29%、平年比9%であった。その他の魚種では、マルソウダが4.1トン、前年比4.5倍、平年比52.1倍と2月の水揚量としては昭和57年以降最も多かった。魚体は30cm前後主体であった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下(表)の通りで、各漁場の水揚量の割合は、マイワシでは川奈漁場が59%(221.5トン)、北川漁場が27%(99.5トン)、さば類では北川漁場が36%(11.1トン)、川奈漁場が19%(5.9トン)、谷津漁場が17%(5.2トン)、オアカム口では北川漁場が89%(8.2トン)、スルメイカでは北川漁場が41%(3.1トン)、富戸漁場が22%(1.7トン)、カタクチイワシでは古網漁場が96%(4.8トン)を占めた。
* 平年：昭和57年～平成31年の平均値

(表) 多獲された魚種の水揚量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
マイワシ	374.7	6.36	18.20	川奈、北川
さば類	31.2	1.92	1.27	北川、川奈、谷津
オアカム口	9.2	2299.75	121.69	北川
スルメイカ	7.5	1.65	0.30	北川、富戸
カタクチイワシ	5.0	0.29	0.09	古網

[サバたもすくい網]

小川港所属の棒受網漁船はたもすくいで操業し、漁場は月を通じて主に利島に形成された。水揚量はマサバ1,259トン(前年同月1.9倍)、ゴマサバ51トン(前年同月比46%)であり、1隻あたり水揚量はマサバ30.0トン(前年同月21.2トン)、ゴマサバ1.2トン(前年同月3.5トン)であった。1kgあたり平均単価はマサバ125円で前月(156円)を下回ったが、前年同月(121円)をやや上回った。ゴマサバは120円で前月(121円)、前年同月(119円)とほぼ同額であった。

水揚げされたマサバの体長組成は32cmにモードを持つ単峰型、ゴマサバの体長組成は28cmと34cmにモードを持つ2峰型を示した。

小川港 さば類(たもすくい網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R2年2月上旬	664	9	5	15	44.3	0.6	129	122	利島
中旬	442	13	5	18	24.6	0.7	129	121	利島
下旬	153	29	3	9	17.0	3.2	101	119	利島、銭洲
R2年2月計	1,259	51	13	42	30.0	1.2	125	120	利島、銭洲
H31年2月計	679	111	12	32	21.2	3.5	121	119	利島、三本、銭洲
H30年2月計	698	27	10	30	23.3	0.9	109	136	三本、銭洲

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[まき網(いわし類)]

マイワシの水揚量は、伊東港では461.4トン(前年同月比1.8倍、平年同月比3.2倍)、沼津港では1,066.6トン(前年同月比93.0%、平年同月比1.1倍)、小川港では308.7トン(前年同月比73.8%、平年同月比62.2%)、静浦港では水揚げが無かった。カタクチイワシは、沼津港では26.5トン(前年及び平年水揚げ無し)、小川港では0.7トン(前年同月水揚げ無し、平年同月比1.3倍)、伊東港、静浦港において水揚げが無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは374.7トン、カタクチイワシは5.0トンであった。
* 平年：過去5か年(平成27～平成31年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

2月3日	サクラエビ音響調査	(1日間)
2月3日～2月5日	地先定線観測調査	(3日間)
2月6日～2月7日	サバ標識放流調査	(2日間)
2月14日	いわし類卵仔分布調査	(1日間)
2月17日	ドックへ回航	(1日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

